

令和6年3月30日

関係各位

## 令和5年度学校評価・自己評価報告書

烏山学舎 世田谷区立烏山北小学校

校長 河野 芳浩

### 令和5年度重点目標

- (1) 「キャリア・未来デザイン教育」の充実による、思い描く未来を実現することができる資質・能力の育成
- (2) カリキュラム・マネジメント・ICT活用・探究的な学びの充実による「主体的・対話的で深い学び」の推進
- (3) 教師と子どもの信頼関係を基盤にした「支持的風土」のある集団づくりや学校・家庭・地域が連携した「共育」による学校力の向上

### 重点目標に対する自己評価

「教育活動全般を通して、人権尊重の精神を培い、偏見や差別、いじめを許さず、自他の良さを認め合い尊重し合う人権教育を推進する。」「指導内容の共通理解、情報共有と指導の明確化を図り、子どもとの信頼関係を構築し、規範意識の向上と互いに認め合える風土の醸成を図る。」「教育活動全般を通して、「目標に向かって頑張る力」「人とうまく関わる力」などの非認知能力を育み、学びに向かう力の育成を図る。」において、教員の努力の度合い、成果を感じる度合いも高くなっている。努力の度合いの偏差も小さく、全教員で取り組むことができていると考えている。

「学習や生活の振り返りやキャリア・パスポートなどを活用して、子どもが主体的に自身を振り返り、児童が自己の良さに気付いたり、自信を高めたりするとともに、将来への希望や抱負がもてるようにする。」については、教員の努力の度合い、成果を感じる度合いとも低くなっており、今後の本校の課題の一つである。メタ認知の視点で振り返りを行いながら、得た気付きや仮説を次の活動に生かすなど、活動と振り返りのベストマッチを模索し、教員間で積極的に共有化していくことで改善を図ることができると考える。また、「子どもにとって楽しく分かる授業や計画的・創造的な特別活動の実施を通して、子どもの学校に対する満足度の向上を図る。」については、努力の度合いに比べて、成果の度合いが低く、教員の取組がなかなか成果に結びついていない。児童の実態を的確に把握し、教える授業から、自ら学ぶ学習への転換を図ることで、子どもが主体的に学習に関わり、楽しく分かる授業を行えるよう教師力向上に努める。

## 2 令和6年度学校経営の重点

みとめあい まなびあい そだてあい の からきた小

- (1) 【みとめあい】 自分を大切にするようにお互いのよさを認め合うことができる資質・能力を醸成する。
- 人権尊重の精神を培い、偏見や差別、いじめを許さず、自他のよさを認め合い尊重し合う人権教育を推進する。
  - 「目標に向かって頑張る力」「人とうまく関わる力」などの非認知能力を育み、学びに向かう力の育成を図る。
- (2) 【まなびあい】 カリキュラム・マネジメントやICT活用・探究的な学びの充実により、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。
- カリキュラム・マネジメントによる授業改善に取り組み、身に付けた資質・能力を生かす問題解決的・探究的な学習過程で「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。
  - 児童一人一人が、自分の学びを振り返り、新たな課題を見付けていく学習サイクルの確立を図るとともに、児童の状況に応じ、個別最適な学びの充実を図る指導の工夫を行う。
  - 子どもにとって楽しく分かる授業や計画的・創造的な特別活動の実施を通して、子どもの学校に対する満足度の向上を図る。
- (3) 【そだてあい】 教師と子どもの信頼関係を基盤にした「支持的風土」のある集団づくりや、学校・家庭・地域が連携した「共育」により、学校力を向上させる。
- 指導内容の共通理解、情報共有と指導の明確化を図り、子どもとの信頼関係を構築し、規範意識の向上と互いに認め合える「みとめあい・まなびあい・そだてあい」風土の醸成を図る。
  - 地域運営学校としての機能や学校公開、保護者会、個人面談等機会を活用し、保護者も「みとめあい・まなびあい・そだてあい」のできる風土の醸成の推進を図る。
  - 社会に開かれた教育課程を実現し、身近にある家庭や地域の高い教育力を生かし、今の学びが将来につながっていることを実感させられるような教育活動を行う。